

# 那珂川市図書館

## オススメの1冊

『お面屋たまよし』 石川 宏千花／[著] 講談社 児童書 ものがたり【イシ】

本の表紙の2人、太良<sup>たいら</sup>と楽良<sup>かんら</sup>は赤ん坊の頃、御招山<sup>おまねきやま</sup>という天狗が住まうお山に捨てられていた。2人は、山の者を統べる隠さまに保護され、面作師の仁王次という男に預けられる。

面作師の見習いとして仁王次が作る面を売り歩く太良と楽良。しかし、2人が扱う面は、縁日で売っている普通の面だけではない。裏の屋号「魔縁堂」で取り扱うのは妖面。妖面とは、被る物が望む姿になれる面。ただし、心が負け、妖面に取り込まれると面が外れず、荒魂化し、人ならざる者へと変容してしまう。そんなリスクを負ってもなお、二人の元へ妖面を求める人が次々にやってくる。荒魂化する者、しない者。さまざまな人間の欲望と希望と葛藤で織り成す人間味あふれる物語。

作者の石川宏千花さんは、『ユリエルとグレン』で第48回講談社児童文学新人賞佳作、日本児童文学者協会新人賞を受賞。「お面屋たまよし」シリーズの他に、「死神うどんカフェ1号店」シリーズ、「少年Nのいない世界」シリーズ（全て講談社）など多数出版。彼女の作品には、魅力的な登場人物が多く出てきます。

10月から11月にかけて那珂川市図書館で行われる「図書館においでよ24」では、作者の石川さんをお招きし、作品や本への想いについてお話しいただきます。講演会の詳細については、チラシ等をご確認ください。みなさまのご参加、お待ちしております。

那珂川市図書館司書（ハチ公）